

KSKQ

ゆうとのおん

通信

NO.118

2020年10月号

郵便振り込み口座 00910-9-106532

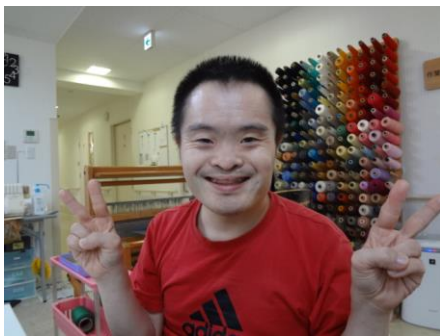
編集人 (社福) ゆうとのおん通信 編集委員会 八尾市久宝園 2-30-4

一九九一年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 定価50円

ゆうとのおんに、これたのは無認可作業所時代。そのころは、クッキー作りに精を出し、器用に生地をこねたり丸めたりしていました。スタコラハウスでもバリバリ働いていて、接客も、そうじも大好きでした。現在は、さをり班でがんばっています。なんと、キャリアは20年目の大ベテラン！メンバーからも「先輩！」「社長！」と呼ばれることも・・・。

自分が作った糸紡ぎをゆっくりと織り込むのが得意でした。今は、糸紡ぎと軽作業の仕事をがんばる毎日です。たまには、しんどくなってしまうこともあるけれど、そんなときは、ピオトップ畑へ行き、パラルの下で、のんびり過ごすこと、機嫌も直ってしまいます。

朝の送迎車に乗り込むと、突然「悟空、見る？」と笑顔で話しかけてきます。家ではドラゴンボールのアニメを観るのが大好きなのだそう。そんな福田さんの得意ポーズは、やっぱり「かーめーはーめー波っ！ー」



福田和人(ふくだかずと)

1978年、生まれ 42歳
八尾養護学校卒業後、1997年、無認可作業所ゆうとのおんに。
その後、ゆうとのおんうえーぶ(就労継続B型)から2016年に、ゆうとのおんはーと(生活介護)へ

ここで、生きる

ムシリース No.16

小さなころから数々の病気や手術を経験し、身体が弱かった福田さん。初対面の人にはよく「にゅういんー」と誇らしげにお腹の手術痕を見せてくれていました。

自己紹介をするときには「俺、かずとー」と少しシャイな一面を見せる福田さんも今年で42歳。この十一月から、ゆうとのおんのグループホームに入居デビューします。

「環境が変わるので、いろいろ心配事はありませんが、世話人さんの言うことをよく聞いて楽しく暮らしてほしい。土日には元気に帰ってきてほしい」とお母さん。

大丈夫ー！ホームでも楽しく暮らしていきます。これからは福田さんの笑顔、たくさん見せてくださいね！(聞き手・古川晶子)

8月研修報告

「精神障がい理解と支援」

「ほっとナビ訪問看護ステーション」橋本さん、原田さんに、8月19日、お話をいただきました。

☆橋本 直樹さん(地域医療福祉連携部 部長 看護師)



これまで精神科に20年間

携わり、入院医療から在宅医療まで、様々な障害を抱えた方をサポートしてきました。会社の理念である共生社会の街づくりを目指し、私たち心の中にある障害という壁、社会の側の障害が少しでもなくなり、皆が1人の人として素晴らしい人生を送れるような社会を作ることができたらと思います。活動しています。今回は、「知的障害や精神科訪問看護とは」の内容で、お話をさせて頂き、スタッフの皆さまと交流できたことをとても嬉しく思います。皆が笑顔で暮らせる社会と一緒に作れたらと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

☆原田 一未さん(地域医療福祉連携部 精神保健福祉士)



精神科単科病院にて医療福祉相談室にて勤務し、その後、児童発達・就労移行支援を経験させていただきました。病院での経験の中で地域で支援を行っ

ていきたいという気持ちから、現在、訪問看護にて利用者様の社会資源の提供などのケースワークを行わせていただいています。今回、ゆうとんにて精神科訪問看護などのお話とスタッフの皆様と交流させていただく機会を作っていただきありがとうございます。ゆうとんではとても素敵な取り組みをされており、興味深く感じ、施設での支援なども色々教えていただきたいと思います。同じ地域の仲間として、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ゆうとんスタッフの感想

☆実在の人、架空の人を問わず、事例があると話が入ってきやすく、イメージしやすかったです。当事者を支援するにあたって、サービスで生活をつめてしまわないという言葉が記憶に残っています。できないと手をさしのべてしまいますが、当事者とともにやることができるようになり、できる力をのばす支援が大切だと思いました。意識しないとむずかしいですが、できたらほめるということは、本人の自信につながるので意識したいと思います。(奥村美月)

☆生活モデルと医療モデルの違い、アプローチの仕方の違いは、以前から支援における大きな課題の一つと感じていました。その部分にしっかりと目を向けて取り組んでおられるのが、印象に残りました。自分が目指すべき支援として参考になりました。(松田健太)

☆知的障がいや精神障がいの基本的なことや制度について学べて、勉強になりました。福祉的な視点と医療の両方の視点を見ていかなければならないことを、今後に生かしていきたいです。(山根旅人)

☆具体的な話がなかったので、イメージがともしやすかった。研修のなかで、人と人の付き合いといったキーワードが何度も出てきたので、精神科への考えが少し変わった。「知的障がいと疾病を分離した視点で考えて理解していく」といったあたりまえのようで気づきにくい視点を考えることができ、よい研修となりました。これから自分の関わる視点の参りにします。ありがとうございました。(桃井百合)

☆私が所属している班は、今回の事例に出てきた人たちよりも重度と呼ばれる人が多いが、自己肯定感を上げる支援による変化を何度も見てきているので、あらためてポジティブサイクルという取り組みの大切さに気付かされました。医療と福祉の連携という部分では、「報告・連絡・相談」によって支援の「足並みをそろえる」、「先走った支援をしてしまわない」ということがあらためて大切だと認識することができました。また、医療と福祉の視点の差についても話を聞くことができてよかったと思いました。

(栗野真人)

9月研修報告「ハラスメント防止研修」

社会保険労務士の鈴木浩昭さんを講師に、第1回ハラスメント防止研修を行いました。

鈴木さんからの研修についてのまとめです

今回は、パワーハラスメント研修の機会をいただきありがとうございます。不慣れな講師にも関わらず最後まで熱心に聞いていただき大変感謝しております。

社会保険労務士としてハラスメント研修は何度か受講してまい



たので、講師の依頼をいただいたときは、なんとかやれるかなと思っていましたが、研修の内容を検討し始めるとお伝えしたいことが、いろいろと出てきて少し欲張りすぎだったかなと研修を終えた今では反省しております。

都道府県労働局等に設置されている労働相談コーナーに寄せられる労働相談の中で「職場のいじめ・嫌がらせ」は年々、増加傾向にあります。「解雇や退職勧奨」などの相談が減少傾向にあるなか、顕著に増加しているのが現状です。

今回の研修では厚労省のガイドラインを基にパワーハラに該当する例・しない例のお話もさせていただきましたが、指導的立場にある職員の方々には「パワーハラかどうか」にこだわって考えるよりも、

「より良いマネジメントはなにか?」を考えながら「悪い言動」を排除して「よい言動」を増やしていくっていただけたらと思います。また、パワーハラは一方的なコミュニケーションが続いているときに起こりがちです。職場全体の取り組みとしては相手の話によく耳を傾けて、双方のコミュニケーションをどんどん増やしていただけたらと思います。



コミュニケーションの良い職場は、おそらく誰にとっても働きやすい職場であると思います。働きやすい職場づくりのためにこれからも取り組んでいただけたらと思います。

ゆうとんスタッフの感想

☆パワーハラ研修で思ったこと。何よりもコミュニケーションが大切なんだと思いました。私自身、抱え込むタイプで外に出すのが苦手です。コミュニケーションを大切にして、笑顔で対応したいと思いました。

た。少なくとも私は、相手を敬い、こういうことのない職場でお互いが気持ちよく仕事ができればと思います。(高尾敬幸)

☆『自分なら、こうする』自信がある人が上司の場合、していないでできていない人を見ると、「なんでやねん」と思ってしまい、態度に表してしまつ場面も出てくると思う『年齢が近い、または経験上、知っているだろうとこちらが勝手に思っている場合も「それくらいわかっているやろ」と思ってしまう』人とは、自分は自分と冷静になるのは難しいです。(竹本真人)

☆研修で「感情コントロール」の重要さが一番、頭に残りました。きつい言葉を投げかけてしまつ側の背景もきちんと調査が必要だと思います。業務量や業務の進め方についてチーム全体で見直すことも効果的だと思います。日々の自己管理や自己分析に加え、お互いの立場や状況をねぎらいながら、うまくコミュニケーションを取れるようにしたいと思います。(松岡知子)

☆『事例をもとにグループワークをしたが、それぞれの意見が新鮮で充実した時間だった』『フェイルセーフ(ミス・失敗があっても、大丈夫な状態を維持できるようにする)』なあり方を意識していければ、責め合うような状況から抜け出せるのではないか。(前田裕)

☆『20年以上前から「パワハラ」ということはが造語としてあることに驚いた』『自分が思うパワハラと社会的パワハラの違うところを知れた』『人に仕事を教えたり、注意したりすることの難しさを知った』『ケースディスカッションをしたとき、自分とは違う意見があつて、もっと話し合いがしたいと感じた』『ふだんから上司とのコミュニケーションを大事に「ほう・れん・そう」をしっかりとしていきたいと感じた』『メンバーさんの話をしっかりと聞き、最初から否定的なことは言わず、共感することを大事にしていきたい』『ねぎらいや感謝を伝えることを忘れずに人と接していきたい』『マタハラと同じような介護によるケアハラのことを知れた』
(阪上明里)

☆パワハラについてわかりやすく説明していただけて勉強になりました。あらためて職場環境の改善に留意せねばと思いました。知らず知らず他者を抑圧していないか、わが身の点検も必要かと思えます。それにしても7人が(パワハラを見聞きしたことがあるに)挙手したとのこと、それなりにショックでした。
(畑健次郎)

☆「指導」するとき、私の気持ちのなかは「何をしてるんやー」とか「まだやー」となっているところから始まる。また周りの職員から「何とかならんか」という訴えから始まることもある。気になるときは特定職員に「指導」しようと思うことを相談したり、私と一対一ではなく、特定の職員に入ってもらっ

たりするときも。それでもきびしいことを言うこともある。「ベテランなんだから」とか言ってしまったこともある。それはもしかしたら、指導された職員は、「パワハラ」と感じているのかもしれない。でも、今回の話では、「ねぎらい」のことがけしや、「小さいコミュニケーション」など、今後、気配りしていこうと思いました。
(富澤久美子)



☆「叱責」という形は、わかりやすいですが「励まし」や「あなた(労働者)のため」という形を取ってのパワハラは要注意だと思います。当該でなく周りの労働者も同調し、パワハラを容認していく恐れもあります。厚労省資料、「就業環境が害される」とは「で、その判断にあたって」

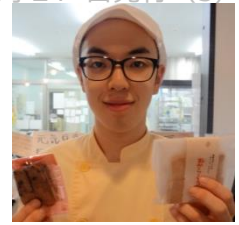
社会一般の労働者が就業するうえで看過できない程度の支障が生じたと感じるような言動であるかどうか」との文言ですが、労働者が賢明でないというのが前提での推進法なんだろうなと思ってしまいます。発達障がい診断もどんどん増加しているし、人間関係やコミュニケーションに頼らないパワハラ回避法を考えていく必要があるのでは? 「相談できない人が目の前にいる」ということを、あらためて肝に銘じて明日から働いていこう!(稲垣寛子)

相手の人をどう呼ぶか(呼称)について(10月研修)

堀 智晴 (インクルーシブ(共生)教育研究所)

今回は「呼称」について、あれこれ考えてみます。「呼称」とは、他人をどう呼ぶか、ということです。いま、ゆうとんとで話しあっているのは、特に職員がメンバーをどう呼んだらいいか、という問題です。私の意見は、『職員はメンバーを「〇〇さん」と呼ぶのがのぞましい』ということですが、まえに、人権研修で話しあったときに、こんな意見がありました。『長い間、職員がメンバーを「〇〇ちゃん」と呼んできた。メンバーもそう呼んでほしいと感じている。そういう親しい、いい関係なのだから無理に「〇〇さん」と呼ぶのもへんだ。〇〇ちゃんでもいい』それから私はずっと考えてきました。そして、やはり、『職員はメンバーを「〇〇さん」と呼ぶのがのぞましい』との意見になりました。職員とメンバーの関係は対等です。対等の関係なら、相手をお互いに「〇〇さん」と呼ぶのが一番いいのではないかと考えるのです。対等な関係とは、言うことは簡単ですが、実際はむづかしいです。つい一方が強くなり、一方が弱くなりがちなのです。このような関係にならないようにも「〇〇さん」と呼びあうようにした方がいいと思います。親しい関係なのだから〇〇ちゃんでもいいのだというのでしょうか。ほんとうに親しい関係なら、「〇〇さん」と呼びあえばもっと本当に親しい関係になると私は考えます。また、みんなで話しあいましょう。遠慮なく、なんどでも。

ゆうとおんはーとパン工房・喫茶班



パン工房 藤本 圭一

「僕は、パン工房に来て4年目になります。この4年間でパン生地のおめ作業、パン生地の切り作業、パン生地の伸ばし作業等、沢山の仕事を覚えしました。今は、メロンパンの成形作業や好み焼きパンの仕上げ作業を勉強中です。これからも、パン工房でたくさんのお仕事を覚えるように頑張っていきたいと思っています。パン生地を扱っているのが楽しい！」

パン工房 谷口 愛美



「今はパン生地の伸ばし作業、チーズドックパン、ハートデシヨラパン、枝豆パン、3種のチーズホルケーノパンの成形を勉強中です。パンの仕上げ

げ作業では、お好み焼き、パン・クルミ、チーズパン、チーズ載せ等、自分のできる仕事も増えてきたことが嬉しい！パン工房で仕事をするのは楽しいので、今後も色々な作業を覚えていきたいです。」



パン工房 松嶋 陽菜

「私は沢山の仕事に取り組んでいます。パン工房で楽しい作業は洗い物です。食器洗いや食器拭きをしている時に、電車のことやジブリのことを考えているのが楽しい！これから、シヨラカスタードやクリームパンの包み成形にチャレンジしてみたいと思います。」



パン工房 青山 祐二

「僕は、オーブン作業とパン生地の仕上げ作業を中心に取り組んでいます。オーブン作業は

責任感を持って頑張っている仕事です。パンに焼き色を付ける作業は難しいけど楽しく取り組むことができています。最近では、パン生地の丸め作業に取り組むようになりました。丸めの練習、頑張るぞ〜」。



マル・デ・カフェ 宮野 武

「僕は、マル・デ・カフェの店長をしています。店長として毎日、責任感を持って仕事に取り組んでいます。今はレジ打ち作業やパン値段の把握等、多岐に亘り仕事をこなす毎日です。でも、レジ打ち作業では、値段を打ち間違えることもあるので、日々勉強中です。カフェはさまざまな商品をそろえていますので、ぜひぜひ皆々もお越しください。待っていますよ〜」。



ゆうとおん ぽーぷ

産休に入らせて頂くことになりました

島袋 美紗子

もう、ご存じの方もたくさんおられると思いますが、このたび、十月中旬より産休に入らせて頂く事になりました。ですので、暫くの間、仕事を休ませていただくことになり、皆様にはご迷惑をおかけしてしまうかと思ひます。大変申し訳ございません。

四月に妊娠が発覚し、その時巷ではコロナの緊急事態宣言だのと大騒ぎしている時でした。

丁度悪阻が重なった事もあり、その間も約一カ月程お休みをいただきました。ただでさえ初めて経験するしんどさの中、未知数な感染症の出現により、コロナの報道ばかりのテレビをつける事を拒み、外に出る事も子どもに何かあったらと思うとできず、心身共におか

しくなりそうな日々をおくっていたのが今は懐かしく思ひます。(苦笑)仕事に関しても、ここまで休むことがなかったで、皆さん大丈夫なのだろうか？どうさ
れているのだろうか？もう私の事なんて忘れている
のではないかととも思っていました。でもいざ復帰させ
てもらうと、本当に自分は一カ月も休んでいたのだろ
うかと思ふぐらい、自然に溶け込ませてもらい、以前
と変わらない日常がありました。(もちろん、大丈夫
か？と心配して頂くことはありましたが、些細な事か
もしれませんが、当時の私は、その事ですごく救われ
た記憶があります。現在は安定期にも入り、お腹もど
んどん大きくなってきました。そんなお腹を優しくさ
すって笑ってくれる方、羨ましいと言ってくれる方、
「男の子かな？女の子かな？」と考えてくれる方、

名付け親になってくれようとしてくれる方など、皆さん反応は様々です(笑)職員や、家族の皆さんも、いつも体を気遣って下さり、優しいお言葉も頂き、本当に感謝しかないです。そんな“働く場”の一員になり、私もお腹の子供も幸せ者だと思ひています。

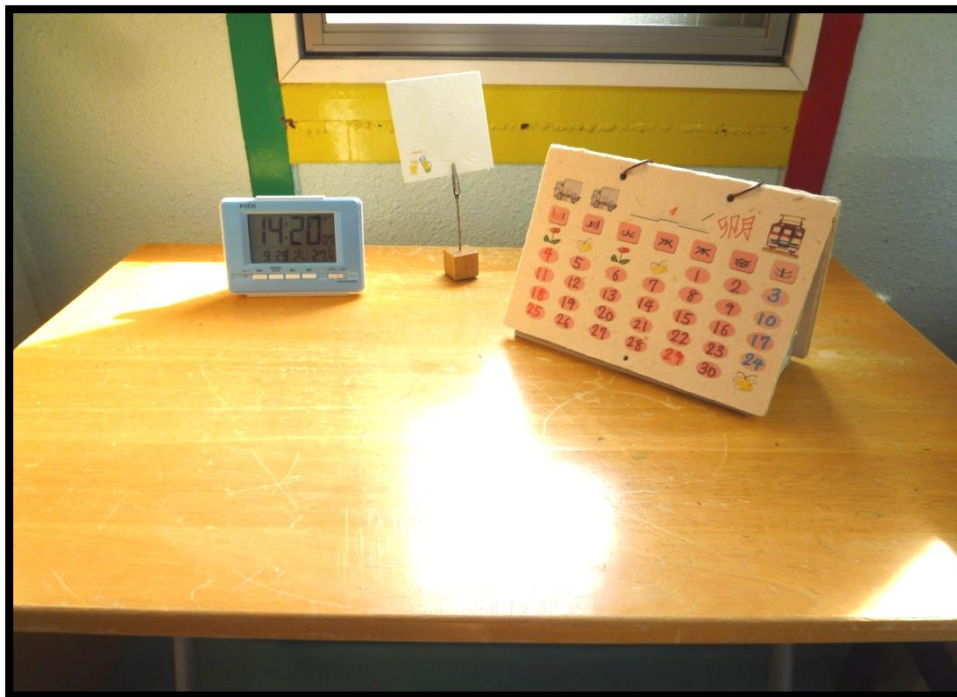
まだまだ未熟な私ですが、母になり、また一つ強くなつて帰って来たいと思ひています！(笑)復帰後、また皆様に会える日を楽しみにしていますので、くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。



うえーぶ
紙すき班

今年も「うえーぶ」が「かみすきだいたい」では来年のカレンダー作りが佳境を迎え、メンバーさん、職員が力を合わせて作業に取り組んでいます。牛乳パック、コピー用紙、米袋等を原料とし、いろんなカラーの紙すき用紙を作り上げ、そこにメンバーさんの描いたイラストを使い、カレンダーを作成していきます。

2021年 2WAYカレンダー
定価 1200円



今年はいつもと少し趣向を変え、二通りの使い方ができるカレンダーを作ってみました。
みんなの自信作をぜひお試しあれ！



げきだん 劇団「ひなたぼっこ」 演劇練習

ころな えいぎょう ちゅうし えんげきれんしゅう がつ さいかい
コロナの影響で中止だった演劇練習が7月より再開しました！！



めんぼー かつやく こうし
メンバーさんの活躍について、講師の
きむ・みんす せいせい ぴょん・りょん せん
キム・ミンズ先生とピョン・リョン先生
せい おはなし うかが
生にお話を伺いました！



★メンバーさんの演劇の上達度はいかがですか？

ゆうとおんで演劇活動を始めて5～6年経ちます。風船遊びでは相手の方の名前を呼びながらパスをすることで百回以上もパスができるようになりました。目標を立てると何事も練習を頑張って上達されています。また、あるお題をこちらから発表し、そのお題に対して気持ちの表現をみんなの前でやってもらう小芝居の練習では、皆さん積極的に手を挙げて、やりたいと言ってくれます。手足を使ったリズム遊びでは、音でリズムを覚えている方もいらっしやいます。

※発声練習はコロナの兼ね合いで現在は中止しています。

★演劇練習を教えてくださいなかに感じていることや気付かれたことは何ですか？

一緒に過ごす中で「演劇は楽しい」ということを皆さんから教わっています。演劇では決まったことをしないといけないとか、決まった線路自体がないので、皆さんがもともと持っている発想力で、みんなと一緒に道を作っています。一緒に楽しみ一緒に笑うことができています。

★先生からみた、ゆうとおんのみんなとは？

皆さんは、形上のあいさつや会話をするのではなく笑顔があり、自然で、心豊かです。演劇を心底楽しもうとしてくれていて、そういう、皆さんの日常を楽しもうとする生き方を感じます。本心に、私たちが思っている想像以上のものを、みなさんたくさん持っておられて一緒に演劇をするなかで、私たちが多くのことを学ばせてもらっています。



「きめる会、新たな挑戦 リモート交流会」

みんなで決める会では、今まで様々な発表や外部との交流を重ねてきました。今年の始め、どんなことに挑戦し、経験できるのか、大きな期待にワクワクしながらスタート。ところが、コロナウィルスのために、4月・5月は集まることができませんでした。6月より人と人の間を開けながら会議ができるようになり、出てきた計画が、「リモート交流会」でした。

今までは想像もしなかった、パソコン越しの交流です。この交流会の申し出に、奈良県のちいろば園「みんなのかい」のみなさんが賛同してくださいました。ちいろば園のみなさんとは、交流会を2回経験しています。音声の環境等を考慮し、みんなで決める会からは、選抜メンバー（松田さん、寺田さん、山本さん、宮田さん、西矢さん）が参加しました。写真で、モニターに映っているのが、ゆうとおんのきめる会、モニターを見ているのが、ちいろば園の、ちいろば園のみなさんの会です。

8月18日（火）、いよいよリモート交流会本番となり、ドキドキのスタート。コロナでどんな状況だったか、緊急事態宣言中は、どのように過ごしたのか、仕事への影響はどうだったのか、序盤はコロナウィルスの話題でした。その後、将来の夢、職員の対応等の話で大盛り上がりでした。



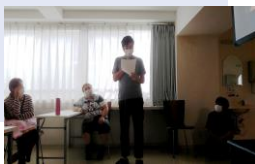
盛り上がりでした。

画面越しなので、リアクションを意識しながら進めました。相手の答えが良い回答なら「いいねー」ポーズ、聞き取りにくければハテナ？マークを出す等、初めてのコミュニケーション方法も皆さんこなすことができていました。通信トラブルもありましたが、「とても良い経験ができた」と参加したみなさんは喜んでいました。「今まで、できたことが、できなくなっ

「家族交流会での発表」

9月25日、家族交流会で、きめる会からの発表を行いました。昨年のピープルファースト大阪大会の報告、大会ビデオと感想発表でした。

☆松田さん「ゆうとおんバンド発表のとき、キーボードを弾けてうれしかった。がんばって練習した」
☆青山さん「いろんな人に、カホーンを聴いてもらえてよかった。名刺交換で、いろんな人に、名刺を配れたことがよかった。」
☆山本さん「2019年ピープルファースト大会の時は、きめる会に、まだ入っていなかった。ビデオでみんな生き生きしていた。機会があれば参加したい」



●きめる会活動への感想発表

☆松田さん「きめる会の代表をしてよかった。みんなが『ワーツ』と意見を言うので、まとめるのが難しい。また、職員の口調が速すぎ、わからなくて困っている」

☆山本さん「副代表としては、ちいろば園以外の事業所とも、たくさん交流してみたい」



支援者より感想

☆昨年、きめる会の担当をしている。日中作業時ときめる会参加時で当事者の雰囲気の違い、自分の思いを率直に出されていると感じる。支援者として「どっこの思いを満たせるか」と悩みがあり、難しさも感じている。感動するのは、大舞台で堂々と緊張せずに自己表現ができたこと。現状ではコロナ感染拡大防止のため制限はあるが、可能な範囲で外に出ていろいろな経験を広げたい。（松岡知子）

☆現在、きめる会では、会則を作成中。いろいろなことを話せる、考えを出せる、それが何より大切。また、きめる会で「職員に面談をしよう」との話が出ており、今年度中に1回は設定できればと思う。今後も総会や、いろいろな場所で活動を発信していきたい。（前田裕）

とうせい さぎょうしよじじょう
当世作業所事情80

はたけんじろう
畑健次郎

つよこつか
ー強い国家ではなくやさしい社会ー

ネ
Aさんは今年40歳になりました。彼女が大型入所施設から、ゆうとおんのグループホームにやってきたのはずいぶん前です。「きたのはいくつときやった」と聞くと、「25歳」と応じます。田植えのイベントに出かけたとき、「もう三十路や」とぼつんとつぶやくのを耳にしてから、もう10年が経ちます。

さいきんげんへ
最近減りましたが、彼女はときどき、夜中にフラッシュといくなります。そのたびに探し回るのですが、夜明けまでに発見できないこともあります。

しゅうきてき
周期的に精神科の病院に入院したいと言います。

「入院は病気の人を治すためやから、Aさんには必要ない」と言うのですが、結果的に今まで何回も入院しています。一週間もすると「早く退院したい」というのがパターンです。報告を聞き、そして垣間見る限りでは、けっこうマイペースに暮らしています。それでも、彼女にとつてグループホームは窮屈な空間のよう

です。めったに他人の悪口を言わないAさんですが、世話人をはげしくなじることがあります。Aさんの氣質や育ってきた環境の問題も絡みますが、彼女なりの直感で、世話人は自分たちを教化の対象と見なしているのではないかという反発も根つこのところにあるような気がします。「どの世話人やったら話しや

すいの?」と聞くと、「Bさん、Cさん、Dさん」と名前をあげます。でも自分の方から、その人たちに相談しに行くということは、まずありません。

それにしても煮詰まったときの逃げ場が、入院だけでは切なくなります。「本人が入院したいと言っているのに、」やめといった方がいい」という畑こそ、自由とか自律とか言いながら矛盾しているじやないかという声も聞こえてきそうです。病院や医師を無条件に信頼するわけにはいきませんが、病院の持つ機能や医師の専門的な知見を無視していいとは思っていません。「医療との連携」は必要ですが、過度の期待や依存は福祉の放棄にもつながりかねません。

テレビを観ていると、マイナンバーカードでマイナポイントを申し込むと、上限5000円分のポイントをもたらえるというようなコマーシャルが流れています。国民総背番号制への地ならしは、いろんなところですからめられています。5000円分のポイントにつられて、気が付けば個々人は国家に丸裸にされてしまうかもしれません。

どこで生まれ、どんなものを食べて育ち、どの学校を出たのか、そこでの成績はどうだったのか、どこに就職し、年収はいくらで、どんな役職に就いたのか、スパーでは何を買っていくら払ったのか、どんな服を好み、どんな本を読み、どんな映画を観て、どんな趣味

を持ち、そしてどんな考えを持ち、どんな人間関係を持つているのか、どこを旅し、いま現在どこで何をしているのか。一枚のカードからすべてが把握できる時代がすぐ目の前に迫っています。国家権力を握っている人たちが、個人を管理したいという欲望は尽きることがありません。そんなことはない、昔よりプライバシーはうるさく言われているし、個人情報報は守られているはずだ、という人もいるかもしれません。

たしかにモリ・カケ・サクラをはじめとする権力者の不都合は都合よく隠されます。森友学園問題による公文書改ざんで、自殺に追い込まれた国家公務員だった赤城さんの妻が、「きちんと事実を明らかにしてほしい」と訴えても、安倍さんの継承を掲げる菅さんは「解決済み」との姿勢を崩しません。

自分のすすめる政策に黙って従わない官僚は異動させると恫喝し、「形式的な任命」にすぎなかったはずの日本学術会議の人選にまで介入します。軍隊は持たない、国際紛争は外交努力で平和的に解決する、健康で文化的な最低限度の生活は保障するといった憲法の条文や精神は無視され続けるこの国です。

子どもを産むことのない生産性のない性的少数者にお金をかけるのは無駄と公言した杉田議員や、「ミニケーションのとれない」障害者は生きていても仕方ないという植松受刑者は、菅さんたちの考えを先取り、忖度しているように見えて仕方ありません。

「民意」なんぞ一過性の騒音のようなものとタカをくくる令和おじさんは、今日もせつせと辺野古の海と私たちの基本的人権を埋め立てることに余念がありません。

嘆いてばかりでは仕方ありません。この国を支えているのは他ならぬ私たちです。自分たちの日常から点検していかねばなりません。たとえば情報の扱い一つとっても、私たちもヒトを効率よく支配しようとする権力者と同じような発想になっているんじゃないかと思うことがあります。

私たちは、ゆうとおんを利用して通所者や入居者の詳細な個人情報を得ることを、「支援」に必要だから当然のことと思いがちです。「善意」から出しているのだから、プライバシー擁護という考えとは矛盾しないと思っています。

職員が働きやすい環境をつくるために、私生活に關するもつとくわしい情報を一律に出してくれといったらどうでしょうか。なぜ自分の私的領域まで管理されなければいけないのか、プライバシーの侵害ではないかという反発がでることは容易に想像できます。自分の私的領域はプライバシー保護の対象で、法人利用者の情報は私的領域も含めて詳細な方がいいのでしょうか。動機と中身は違っても、皆さんたちと同じ図形です。

なんのための情報なのか、なぜ必要なのかということとを一人ひとりの具体的な状況にそつて明らかにする必要があります。あなたの健康状態を改善するために過去の病歴も知りたい「あなたの今を理解するために、どういう環境で育つたのか教えてほしい」「でも言いたくないことや、知られたくないことがあるなら、そのことは尊重する」という風に。

でもお前は事前の了解なしに、Aさんたちのことを書いてるじゃないかと言われそうです。たまに「私（ぼく）のことを書いたのと違う？」と言われることもあります。それよりも「わけのわからん、だから文のために2ページもスペースをとつていいのか」という声の前には恐れ入るばかりです。思えば、自分たちの仕事場のことをうまく伝える力がないことはわかつているのに、少しでも「物語」を刻んでおきたいと思つて、ほそぼそ、ぶつぶつとつぶやいてきたただけでした。

「入所施設から地域へ」と取り組んだのが地域移行支援事業でした。その過程で12人が大型入所施設からゆうとおんのグループホームにやつてきました。Aさんたちは管理された空間から自由な居場所へ行きついたはずでした。しかし彼らにかかわる人という要素抜きに予定調和的に「地域」を語つてもウソくさいことを思い知らされました。私たちは12人で受け入れをいったん断念し、事業から撤退することになり、今に至ります。

12人のうちの一人がEさんでした。難病を抱えていた彼女の手術はうまくいかず、今年の7月1日、還らぬ人となりました。彼女は両親と兄の4人家族でした。ゆうとおんにやつてきたとき、すでにお兄さんは逝つた後でした。お父さんが亡くなったとき、Eさんは遺体と対面することができませんでした。葬式にも出ることができず、すでに認知症を患つていたお母さんの代わりに後見人が、Eさんの代わりに私が参列しました。それ以降、認知症のすすんだお母さんと会う機会が一度だけありました。

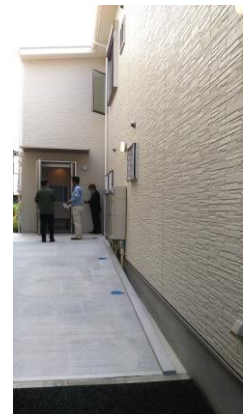
Eさんにとつて、そこにいるのは自分の知つているお母さんではありません。いつもは陽気なEさんですが、笑顔も見せず、目を合わせることもありませんでした。彼女は怖がりで泣き虫で、おしやり好きで、笑顔がとてもよく似合う人でした。そして何より根がやさしく気のいい人でした。

そんな彼女が紙漉きの作業場で、少しエラそうに隣のFさんに指示を出し、Fさんがむつとしている場面にいくわしたときは、へえー、あのEさんでもエラそうなものか、言い方をするところもあるのとか、妙に感心しました。

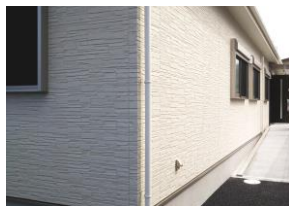
あれから3か月強、なぜかEさんの遺骨はまだ事務所にあります。毎朝、仕事場に出てくるとEさんの遺影が微笑んでくれます。

あた ぼーむ がつ すたーと
新しいホーム「ほっぷ・すてっぷ」が、11月にスタートします！
 じょせい めい くるーぶ ほーむ とう
女性5名のグループホーム2棟です。よろしくお願いします。

一九九一年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 定価50円



リビング



もくじ 目次

- ・ここで生きる (1)
- ・研修報告 (2~4)
- ・はーと、ほーぷ、うえーぶより... (5~7)
- ・演劇練習報告 (8)
- ・みんなで決める会より..... (9)
- ・当世作業所事情80 (10~11)

「編集後記」

- ・ まだまだ続くコロナ渦の中でも、活動や仕事に一生懸命取り組む当事者の方の姿をほほえましく感じながらの編集となりました。ご協力いただいた講師のみなさま、職員のみなさまありがとうございました(G)
- ・ 118号をお届けします。今号より、全ページにルビを振りました。感想・ご意見は編集委員会まで(M)

社会福祉法人 ゆうとおん

本 部 / 〒581-0834 八尾市萱振町 2-133 TEL 072-993-0785 FAX 072-993-0784
 ゆうとおんはーと / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-68-1 TEL 072-926-6200 FAX 072-926-6199
 ゆうとおんうえーぶ / 〒581-0817 八尾市久宝園 2-30-4 TEL 072-926-1543 FAX 072-921-8883
 ゆうとおんほーぷ / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-73-2 TEL 072-927-1300 FAX 072-927-1301
 スタコラハウス / 〒581-0802 八尾市北本町 1-1-11 TEL 072-995-4387 FAX 072-995-4387
 メールアドレス / youtone@live.jp ホームページアドレス <http://www.eonet.ne.jp/~youtone>
 年会費 / 1口 2,000円 振込先 / 郵便為替口座 00910-9-106532

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階 定 価 / 50円